

活動報告

多文化共生研究所と大学院教育の連携 2018 年度の取り組み

愛知県立大学大学院国際文化研究科教授／多文化共生研究所副所長
亀井 伸孝

2018 年度から、本研究所は「大学院教育との連携」を事業のひとつの柱とし、本格的な取り組みを開始した。今年度、この事業を担当した副所長として、その概要の報告を行う。

■取り組みの背景

2008 年に研究活動を開始、2009 年に正式に発足した本研究所は、大学院国際文化研究科に附置された機関である。研究所を構成する所員である教員や客員共同研究員による研究活動の活性化は、むしろ重要な使命のひとつである。一方、大学院教育との連携については、これまで十分に明確な取り組みが行われてこなかった。正確に言えば、実態としての連携は存在していたものの、明示的な目標と計画とともに行われる機会が少なかったと言える。

これまで、たとえば学術シンポジウムや研究会を開催し、学外のゲストを招いた講演会を催すといった際に、大学院生の授業を兼ねて行うことによって、実質的に教育に寄与するといった試みは数多く存在した。ただし、それらは主として、研究活動の教育への二次的な活用という範囲に留まることが多かった。

本学において大学院の活性化が重要な目標となり、また、研究所を含む学内各部署の機能と役割の再検討などの議論が進むなかで、今年度、初めてそれが具体的な目標および事業計画として立案され、実行された。

■今年度の取り組み事例

2018 年度は、具体的に以下の三つの事業に取り組んだ。

(1) 大学院生によるポスター発表会

2018 年の夏期休業中に、国際学会でポスター発表を行う必要が生じた大学院生たちの要望を受け、教員有志が授業外の活動としてポスター発表の制作に関する指導を行った。このことがきっかけで、大学院生有志が、将来の学会発表などに備えて、課外活動として学内でのポスター制作と発表に取り組みたいという要望が浮かび上がった。また、大学院合同ゼミ（「国際文化特殊演習」）のひとつが、後期の授業としてポスター制作に取り組むという計画をもっていた。これらの要望や計画を統合する形で、同年 11 月下旬に発表会を実施する案が検討された。院生らによる実行委員会を支援する形で、本研究所が共催者として加わった。その結果、9 人の院生がポスター制作と発表に参加し、初めて

の試みは盛況に終わった（本稿に続く開催報告参照）。

(2) 大学院生のための書評トレーニングと成果公開

2018 年度前期の大学院共通基礎科目「国際文化論」で書評執筆のトレーニングを受けた院生たちが、書評作品を公開、刊行できる機会を、本誌で初めて提供することとなった。合計 5 人による 5 件の書評記事を掲載することができた（本誌掲載「書評コーナー」参照）。

(3) 大学院生のための映像制作ワークショップ（呼びかけ）

本学では、学部生を主たる対象として、2012 年度から継続的に映像制作ワークショップを開催することで、フィールドワークの技法習得の機会を提供している（亀井、2015；亀井ほか、2019）。開始当初は院生たちの参加もあったが、やがて国際関係学科の学部生の授業「プロジェクト型演習」に組み込まれたことにも関連し、近年では院生の参加がなかった。2018 年 11 月、今年度の映像制作ワークショップを開催するに当たり、本研究所として院生への参加を呼びかけた。あいにく今年度は参加希望者がなかったが、日程の都合が合えば参加したかったという要望があり、潜在的なニーズを把握することができた。このような調査技法の習得の場を設け、希望者に対してその機会が開かれていると周知したことは、将来に向けた取り組みの一歩として意義があった。

今年度の三つの取り組みを振り返ってみると、そのきっかけは多様であった。学会発表の必要性を背景とした指導と課外活動、授業の成果の副産物、学部生との合同の調査法実習といった具合である。それぞれの取り組みは、研究所単独の事業というよりも、むしろ学内の複数の資源と機会の組み合わせによって実現している。これら、有志教員や院生の取り組みや、個別授業の枠を越えた企画などを包括的に取り込み、事業計画として形にして、公開で実施する枠組みとして、大学院附置の本研究所を有効に活用することができる。

限られた予算と人員と時間のなかで、今後とも、これら学内のリソースの有機的な組み合わせを達成し、それらを結びつけて院生に向けて提供していくことのできる開かれたアリーナとして、本研究所の教育面での機能拡充が図られることを、将来に向けた展望として示したい。

亀井伸孝. 2015.「愛知県立大学におけるフィールドワーク
教育実践報告:「学生のための映像制作ワークショップ」
3カ年の取り組み(2012-2014)」『共生の文化研究』
(愛知県立大学多文化共生研究所) 9: 113-126.
亀井伸孝・宮谷敦美・東弘子・高阪香津美・松林康博・草

野昭一. 2019.「愛知県立大学国際関係学科「プロジェクト型演習」実践報告:2015～2017年度の3か年の
取り組み事例」『愛知県立大学外国語学部紀要:地域研究・国際学編』(愛知県立大学外国語学部) 51:
173-199.

愛知県立大学大学院学生企画

「国際文化研究科ポスター発表会」

実行委員／愛知県立大学大学院国際文化研究科国際文化専攻博士前期課程
木戸 志緒子

2018年11月23日(金)に本学大学院生から成る国際文化研究科ポスター発表会実行委員会主催、多文化共生研究所共催で初の「国際文化研究科ポスター発表会」を開催した。普段大学院生の意見交換や交流の場は講義、合同ゼミ、自主研究グループなどがある。本発表会の趣旨は、より多くの大学院生が参加して、分野を越え討論や交流のできる場を創り出すことで、研究をさらに広い視点から捉え直すこと、また、ポスター発表の方法を学び、今後の学外発表に活かすことである。

会場は同日に開催されていた外国語学部のミニオープンキャンパスの控室の一部をグローバル推進委員会に提供していただいた。準備段階では、2018年10月15日より募集を開始し(図1)、国際文化研究科在籍生に限らず、他の研究科の院生、休学中の院生、修了生など本学大学院関係者全体に広く募集し、以下9名が参加した。

請川 真弓* (国際文化 M1)「フランスにおける
移民系児童のための ELCO 政策の変容と存在意義」

岡崎 雅子 (国際文化 M2)「古代メキシコ「戦士の家」
再考 現地調査報告」

加藤 希 (日本文化 M1)
「「天の浮橋」から「夢の浮橋」へ」

木戸 志緒子* (国際文化 M2)「異文化間教育の視点
から見たホームステイプログラムのあり方
—寮生活を送る留学生の週末滞在に着目して—」

香村 彩 (日本文化 M1)
「日本古典文学における十五夜の文学史」

杜 建金* (国際文化 M1)
「中国大陸の言語および辞書の比較」

永坂 百花 (国際文化 M1)
「メキシコの骸骨版画」

日丸 美彦 (国際文化 D 単位取得退学)
「ルソン島山岳地域ハパオ村の収穫儀礼
綱引きブンノックの復活」

山崎 梨央 (国際文化 M2)「フォホーを踊る人々
—在日ブラジル人の文化実践—」

*は「国際文化特殊演習 b」実践課題発表を兼ねる

2018年11月12日より開催について学内掲示及びユニ
パによる告知をして当日を迎えた。

来場者の声(アンケートより):

- ・大学院生—メキシコの文化に触れました
- ・学部生—ポスター発表に参加してみたい
- ・教員—こうした機会があるのは院生のみなさんにとっていいことだと思います

発表者の声:

- ・ポスター制作の面白味を感じることができた
- ・ユーザー設定でカスタマイズする方法を知れただけでも参加した意義があったと思う
- ・少数のゼミだけではできないのでこういう機会はありがたい
- ・A0というポスターは初めて見たが、会場に合っていて良かった

表 1. 来場者数(計 30 人)

高校生	学部生	院生	教員	職員	一般
1	4	9	13	2	1

実行委員より：

高校生や大学院進学を考えている学部生の来場もあり、将来是非一緒に発表者として参加してもらいたいと感じた。また、先生方が多く足を運んで下さり、講義とは違う和やかな雰囲気の中で交流できたことも印象的だった。初めての試みだったが、予想していたよりも盛大な発表会になり、大学院生同士だけでなく、高校生、学部生、教職員の方々と有意義な意見交換ができた。

謝辞

本発表会にご協力いただいた多文化共生研究所、グローバル推進委員会、学務課、「国際文化特殊演習 b」クラス他、関係者の皆様に深く感謝致します。

**愛知県立大学大学院学生企画
国際文化研究科ポスター発表会
参加者募集！！**

愛知県立大学大学院国際文化研究科学生主催の
ポスター発表会を開催します
研究の計画、経過、成果を発表して意見交換や交流をしませんか

♪ 研究の整理に
♪ ポスター作成のスキルアップに
♪ 学外での発表前後に
♪ その他いろいろな経験に

※開催日：2018年11月23日(金) (祝日ですが講義のある日です)
※開催時間：10時～16時 (入退場自由、発表者は都合に合わせて発表)
※場所：E305
※参加資格：愛知県立大学大学院の方ならどなたでも参加できます
国際文化研究科以外の方、休学中の方、卒業生の方もOK
※参加費：無料 飲み物やお菓子の差し入れ歓迎！
※申込み：下記のメールアドレスにメールで連絡してください
※申込み締切：2018年10月31日(水) (以後も個別に対応可)
※申込み＆問い合わせ：
愛知県立大学大学院国際文化研究科 木戸志緒子
メールアドレス gm171001@cie.aichi-pu.ac.jp

☆当日都合のつかない方はポスター掲示のみの参加も可能です☆
☆スタッフ同時募集中！☆

主催：国際文化研究科ポスター発表会実行委員会
共催：愛知県立大学多文化共生研究所

図 1. 参加者募集ポスター

**愛知県立大学大学院学生自主企画
ポスター
発表会**

入退場
自由！

2018.11.23 金 10時～16時 E305教室

愛知県立大学大学院国際文化研究科
学生主催のポスター発表会を開催します
研究の計画・経過・成果を発表して意見交換や交流をします
どなたでも観覧できますので是非お立ち寄りください

お菓子・飲み物あり

加藤希「『天の浮橋』から『夢の浮橋』へ」
香村彩「日本古典文学における十五夜の文学史」

永坂百花「メキシコの骸骨版図」
岡崎雅子「古代メキシコ「戦士の家」再考」

請川真弓「フランスにおける移民系
児童の出身言語と文化の教育」

杜建金「中国大陸と台湾の言語
および辞書の比較について」

日丸美彦「ルソン島北部山岳地域ハバオ村の収穫儀礼
綱引きブンノックの復活」

山崎梨央「フォホーを踊る人々
—在日ブラジル人の文化実践—」

大澤一輝「Pedagogical Tasks for Teaching Fixed Expressions in Spoken Discourse」
木戸志緒子「異文化間教育の視点から見たホームステイプログラムのあり方
—寮生活を送る留学生の週末滞在に着目して—」

発表者、テーマは予告なく変更される場合がありますのでご了承ください
主催：国際文化研究科ポスター発表会実行委員会 共催：愛知県立大学多文化共生研究所

図 2. 開催についての学内掲示



図 3. 会場の様子 (実行委員撮影)